

## 芦屋特別支援学校との県西祭交流について

今年も芦屋特別支援学校高等部2年生の48名が6月9日に来校されました。

県西側のパートナーとして交流を希望する生徒が、1年生を中心に93名応募してくれ、芦屋特別支援学校の生徒1名に本校の生徒がほぼ2名ずつで、1日をすごしました。

当日はあいにくの天気でしたので、場所を玄関から体育館に移し、吹奏楽部の歓迎演奏にて交流行事が始まりました。



トトロの音楽に思わず踊りだす生徒さんもいました

初対面でお互いに緊張気味です



〇〇へ行きたいやけど・・・

ちょっと待って。今、調べるから・・・



今年も、体育館での対面の後すぐにパートナーとそれぞれ希望する県西祭への見学へ分かれていきました。



大人気のキッキングスナイパーです

私のキック決まったわ



県西生も童心に戻って一緒に楽しんでいます

県西祭での初めての縁日企画が人気でした。

茶室に入ると自然に緊張してしまいますね・・・



太鼓なら、僕にまかせてね。



自然科学部の説明に、両校の生徒ともに聞き入っています。

縁日だけでなく、お茶席へ参加したり、太鼓をたたいたり、文化部やクラスの展示棟も見学しました。人生初のお化け屋敷を体験した生徒もいたようです。お化け屋敷の周りでは数々のドラマが・・・模擬店では、ポップコーンや綿菓子など希望のものを購入し、おいしく食べました。

僕たちは、ピクニック気分  
でお弁当を食べました



喋りすぎて、お弁当を全部食  
べることができませんでした



同じ高校生として、話がは  
ずみました。



事前に好きな食べ物・芸能人や趣味について聞いていたので、予習の成果もあり話が盛り上がったパートナーもあれば、言葉が出なくてコミュニケーションをとるのに苦労をしたパートナーもあったようです。でも、言葉はなくても最後には手を握ってくれてうれしくなったそうです。

今年はパートナーとの交流中心だったので、高校生同士いろいろな話をする事ができたようです。友達として話せるようになったところで、交流終了です。名残惜しくて、バスが見えなくなるまで、県西生は手を振り続けていました。また、来年も来てくださいね。

【県西生の感想】今年には特に障がい者に対する意識の変化について書いています。

・交流後にパートナーのお母さんと話す機会があり、それもよい経験となった。全体を通して障がい者に対するイメージが変わったのでよかったと思う。

・障がいのある人たちとどう関わっていけばいいかがよくわかった。改めて障がい者のことについて知ることができた。今回の経験はとても自分のためになったと思うから、これからも参加していきたい。

・今回の交流では、いろいろなことを学ぶことができた。小中学校の頃に関わった人よりも障がいの度合いが強くコミュニケーションをとることが難しかったが、相手の人が一生懸命伝えようとしてくれたことがとてもうれしかった。苦手なことに対する態度を学ぶことができた。今回の経験を活かして、今後がんばりたい。

・相手の方がすごく頑張っているということ、楽しんでくれているという実感がすごく感じる事ができた。また、正直自分が最初に思っていたよりも、話をよく聞いてくれて、自分たちの気持ちも汲みとってくれていると感じた。

・この交流に参加して思ったこと、これからしなければいけないと思ったことは、社会と障がいの人との壁をなくすことです。まだ、この世界には障がいの人との間に壁があると思います。同じ人間なのでお互いを知り、分かり合うことが大切がと思いました。

・この交流を通じて緊張や不安は一緒に楽しむことによって、すぐに消えてしまうものだと感じました。また、交流とは人の役に立つことをするのではなく、友達として一緒に楽しむことだとわかりました。今回の交流に参加して本当に良かったと思います。